

牛久：学校周辺に見る自然

第32号 牛久二小

2014年3月2日発行

＜ 冬の生きもの観察 植物の冬ごし ～冬芽とロゼット＞

1/22、牛久二小4年生との冬の生きもの観察。今回は、植物たちの冬ごしの工夫についてお話ししましょう。



重ね着タイプのドウダンツツジ(上左)、枚数は少ないが毛皮タイプのハクモクレン(上中)とコブシ(上右)、ぶ厚くなった小さな葉に包まれるアジサイ(下)。コブシなどの大きな芽は花のあかちゃんが入っている芽、小さい方は葉だけが出る芽。芽のつけ根の顔のようなもようは、葉がついていたあと。

まずは冬芽。葉が落ちて枯れてしまったように見える枝にも、次の年の花や葉、茎の赤ちゃんがつまっている冬芽がつきます。これは、冬でも緑の葉をつける木にもやはりついています。冬芽はいくつかのタイプに分けられ、ドウダンツツジのように小さなうろこのようなものに重ね着したかのように何枚も重ねておられる芽。コブシのように枚数は少ないけれどそれが毛におおわれていて、毛皮のコートをはおったように見える芽。そしてアジサイのように小さな葉がはだかんぼでその内側を包んでいる芽。ただしはだかんぼと言っても、アジサイの場合はぶ厚くゴムのようになっているし、ビワなどのように毛でおおわれることも多いようですね。



タンポポ(左上)、ブタナ(右上)、オニノゲシ(左下)、タネツケバナ(右下)の「ロゼット」。このような姿をしていると、お日さまの光をたくさん受けられるし、冷たい風をまともに受けなくてすむ。

次は草の冬ごしで「ロゼット」。タンポポはほぼ一年中地べたに葉を広げますが、冬の間そのように^す過ごし、春になると^{くさ}茎を立てて葉を広げ花を咲かせる草もたくさんあります。輪のように葉をならべた姿をバラの花に例えて「ロゼット」とよびますが、こうすると日光をたくさん受けられるし、冷たい北風をまともに受ける^{しんぱい}心配もないのです。うまくできていますね。

【理科支援員：宮内】



「ロゼット」とはよべないが、低くかたまって同じように暖かくすごせるヒメオドリコソウ。朝早い時間だと、いろいろな色合いに^{こうよう}紅葉した葉に^{しも}白く霜がおりてとても美しい。